

02 不動産利活用

基本情報



【年 齢】
25歳
【出身地】
北海道北見市
【転出元】
愛知県豊橋市
【前 職】
会社員
【活動時期】
R4.4～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

衣食住とアクティビティに興味があり、服飾の仕事から離れようと思っていた時に北海道の地域おこし協力隊というものを見つけました。その中で置戸町がアクティビティ隊員という枠での募集をかけており、父方の地元が置戸町でもあるので、今回応募に至りました。

今後の抱負・任期後の目標

現在は任期後に宿泊所を開く予定で今空き家のリノベーションを行っています。便利な世の中の今、色んな人の生活がSNSで覗けるがゆえに人と比べ、些細な事でストレスを感じる人が増えている時代です。その「精神的な健康をサポートする場所」として心地の良い空間づくりや、心地いい椅子や暮らしの道具も含めこだわった場を作りたい。オホーツクに住みたいと思ってもらえるような環境づくりに力を入れていきたい。

活動内容

●温泉施設勤務と熱波師

1年間コテージ併設の温泉施設に勤務し、置戸町の観光客の動向からコテージ清掃、チェックインを勉強し、温泉に来る住民の方と顔を合わせる機会が作れたことも町を知る最初のきっかけになりました。温泉施設で熱波サービスも始め、人を呼ぶきっかけになればと思い活動しています。



●町のアクティビティ事業

アクティビティ隊員として着任したので町の観光事業と多くかかわる機会を持つことができ、ラフティング、サイクリング、新事業のサップ、テントサウナ、滝のライトアップなど、季節ごとにお客さんを含めた行事も参加しています。



●空き家改修、宿づくり

来年度宿オープンのために空き家を改修し始め、モノの処分から建具づくり、大工仕事を行っていて、セルフだからこそ時間はかかりますが、作業するたびに構想が膨らみ、出来上がる様子を想像して楽しみながら家を直しています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス(協力隊パソコン)) kyouryoku05@oketo-kyouryokutai.jp
(電話番号(協力隊事務所)) 0157-57-1135

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

Instagram→「置戸町地域おこし協力隊 ゆめの」で検索してください。

基本情報



【年 齢】
30歳
【出身地】
愛知県豊田市
【転出元】
愛知県常滑市
【前 職】
建築設備メーカー
(技術職)
【活動時期】
R5.8～

協力隊に応募したきっかけ

眺望の良いロケーションで、一棟貸し宿をやりたいと思い、日本各地を回っていたところ、農村の丘陵地帯の景観に魅了されました。協力隊の業務内容が『空き家の流通促進』ということで、宿の物件探しも兼ねて活動できると思い、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

町には空き家がたくさんありますが、なかなか流通まで至らないという課題があります。

前述の通り、今後の目標は、町内で一棟貸し宿を経営することですが、物件探しが難航していて、現在も探し続けています。地域の方々はとても温かく、応援してくれているので、引き続き目標に向かって進めていきたいです。

活動内容

●空き家の掘り起こし

任期1年目には、町内の家屋すべて（約4500件）を調査し、空き家の特定を行いました。特定した空き家所有者に向けてDMおよびアンケートの送付や、空き家セミナーによる啓蒙活動を通して、町内空き家の流通促進を図った活動をしています。



●空き家相談窓口対応

役場に来庁された空き家所有者さんや、空き家を利活用するために探している人の相談対応を行っています。空き家バンクに登録するための手順や、登録に必要な写真の撮影や間取りを作成するために現地確認することもあります。色んな物件を拝見できたり、生活していた当時の思い出を話を聞けることが、活動の楽しみになっています。

●空き家に関する情報発信

主に空き家バンクに登録されている物件について、その物件の特徴やイチオシポイントをSNSで発信しています。写真と実際に見るのでは、印象も異なるため、大事な活動だと思っています。存分に主観が混ざっていますが、それも含めて楽しんでもらえるコンテンツにしていきたいです！



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(職場)) wakamonoteijuu@town.kuriyama.hokkaido.jp
(電話番号(個人or職場)) 0123-72-3179

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】



← 協力隊の活動は
Facebook で発信中！

基本情報



【年 齢】
58歳
【出身地】
北海道札幌市
【転出元】
北海道札幌市
【前 職】
国土交通省
一級建築士
【活動時期】
R5.4～（2年目）

協力隊に応募したきっかけ

小中を帯広で過ごし、前職で帯広勤務の時に、同級生などが積極的に取り組む街の活動に参加しました。その中で帯広市を中心とし十勝が創生のものであり、幕別町を訪れる機会があり、潜在的な魅力ある公園や、時間が停止しているように空洞化している街中をみました。愕然とした一方で、利用可能な既存ストックが多いこと、地域の方々も熱量も高いことから、何か「きっかけ」が生まれれば地域は活動すると確信し、空き倉庫を活用した地域交流拠点（Makura）を創り地域熱量が高まり町の再生のタイミングと感じたため。

今後の抱負・任期後の目標

Makuraを拠点に人がつながり、仲間が生まれ育み、理想的に町民の方々が想いを行動しています。空き施設の活動も約2年となりますが、約11件の再生が進み、秋までに3件の再生が予定されています。移住者も増え、地域再生に必要な人と人の繋がりや熱量が様々な展開が育んでいます。

また、大学・高校生など町の再生と教育プログラムの融合も活発化し、地域にあった体温・時間に調和した再生が進んでおり、地方にとって理想的と感じていますので、引き続き安定した基盤構成に取り組んでいきたいと思っています。

活動内容

●空き施設利用サポートセンターの運営

施設所有の方が気軽に相談しやすい環境を整えることが大切と考え、役場町外に築56年の築古施設を改修し、空き施設利用サポートセンターを開設（現在は幕練に移転）しました。開設後で約100件を超えるご相談があり、そこから空き施設利用に繋がっているケースもあるなど、今後も有効に機能させ促進を進めたいと考えています。



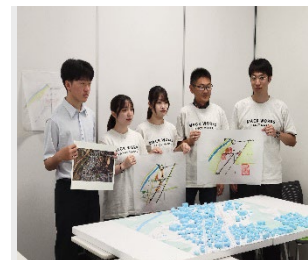
●空き施設利用促進活動

空き施設の現状や利用など、皆さん色々悩んでいる部分にサポートを継続し、同時に再生に必要な指導や作業を共にし、地元不動産企業も含め企業との連携も進め、また今後は新たなる、現状施設の地域機能の向上性を目的に、企画提案を行い、既存ストックを有効に活用した再生に取り組んでいきます。



●教育プログラムと連携した地域活性化の取組

地元高校生及び連携協定の大学、さらには視察に訪れる大学や企業などと様々な展開プログラムを生みこの町の未来理想図を描き、姿形を創造しています。本取り組みは次年度以降も継続し、中期的な視点で町の再生、次世代の子供たちの経験・体験を促進し同時に町の再生に引き続き取り組んでいきます。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

（メールアドレス） a.taniho@town.makubetsu.lg.jp

（電話番号） 0155-54-6606 （商工観光課）

050-8887-3990 （空き施設利用サポートセンター）

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

m.mackworks （Instagram）

基本情報



【年 齢】
23歳
【出身地】
愛知県豊田市
【転出元】
愛知県豊田市
【前 職】
大学生
【活動時期】
R6.4.1～R9.3.31

協力隊に応募したきっかけ

大学時代に立ち上げたイベント出店サークルで企画することの面白さに気づいたからです。高校生のときから保育士を目指していたのですが、地域おこし協力隊を知ったきっかけは准教授が元地域おこし協力隊だったのとその経験談が夢あるものでクリエイティブに活動していきたい自分に合っている職業でした。

新郷村を選んだ理由は、ミッションである廃校の利活用が面白そうだったのと自分が生きている間ずっと自然が豊かな「村」に住みたかったからです。

今後の抱負・任期後の目標

引き続き地域住民と親交を深め、地域の人々の「出来たらいいな」をかなえていきたいです。ミッションである旧西越小学校の利活用については村でよく話し合い、用途変更をすることで地域の人々が自由に行き交えるようにし、その利活用方法が永く続けられるように考えていきます。

他にも任期内の個人の大きな目標は、新郷村の絵本を作り読み聞かせを行うことです。任期後は具体的に決まっていらないのですが新郷村でしかできない職業を見つける、もしくは立ち上げたいです。

活動内容

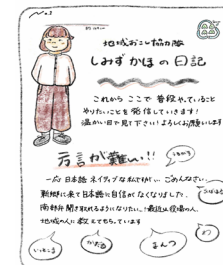
●イベント企画

地域住民に向けた小さなイベントを開催しています。様々な年代の村民と関わりたいのと、関わる中で悩みや希望を聞くことが多いので出来そうなことからイベントにしています。（例：郷のきみの収穫体験、絵本の読み聞かせ×アートイベント、モルック体験会、染めの研究会、図書コーナーの改装計画等）



●地域おこし協力隊通信作成

村内全戸に今月の配布物を届ける毎戸配布というものがあつたのですが、そちらに「しみずかほの日記」を不定期で折り込んでいます。「方言がむずかしい！」や「アブにさされた」など読み手が微笑んでくれるような内容を手書きで執筆しています。



●旧西越小学校の利活用

旧西越小学校の掃除や図書の整理を行っています。また、校舎はさいごし笑楽幸という振興会の会議にも利用しています。現在は用途変更に向けて継続的に活動を実施しています。また、近隣市町村の廃校利活用事例の視察に伺い背景や現状を教えていただき学んでいます。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス） k_shimizu@vill.shingo.aomori.jp
（電話番号（個人or職場）） 0178-78-2111

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（Facebook） <https://www.facebook.com/profile.php?id=61559770041068>



基本情報



【年 齢】
29歳
【出身地】
三重県桑名市
【転出元】
三重県桑名市
【前 職】
マンション設計
【活動時期】
R5.10～R8.9

協力隊に応募したきっかけ

高校1年生のとき、テレビドラマで地域おこし協力隊という存在を初めて知りました。
その後大学で建築を学ぶ中で、「いつか地域おこし協力隊になって空き家に関する活動がしたい」と考えるようになりました。
大学卒業後は設計事務所等で戸建やマンションの設計をしていましたが、コロナの影響で仕事を辞め、自分の将来を考えていたときに、改めて地域おこし協力隊になりたいと思いました。
また仕事で培った知識がある今だからこそ、協力隊に挑戦する意味があるのではないかと思います応募を決意しました。

今後の抱負・任期後の目標

一ノ関駅前の新たな交流拠点「BAKKE（ばっけ）」をより多くの人に知っていただき、利用していただくことが1番の目標です。
最終的には、BAKKEを目的地ではなく“ついでに寄れる場所”または“何かがはじまるきっかけの場所”として地域の人にとって当たり前にある存在になりたいと考えています。
協力隊卒業後は起業するのが目標です。
空き家や移住等に関する事業で起業し一関市と関わり続けられたらと考えているので、市から業務委託していただけるように準備を進めています。

活動内容

●交流拠点BAKKE（ばっけ）

【学生空き家活用プロジェクト】

令和6年度に一ノ関駅前の空き店舗を活用して学生とともに地域の交流拠点をつくるプロジェクトをおこないました。
参加した学生は主に修紅高校などの市内の学生（11名）と、早稲田大学などの都内の学生（4名）。
学生たちは地域を超えて交流を楽しみながら、チーム別にどんな交流拠点にするべきか活用案を考えるワークショップに取り組みました。（2024年10～11月）
その後実際に空き店舗を改修し、地元工務店協力のもと学生たちでもできる部分はDIYをして、自分たちが考えたものが形になる面白さを感じてもらいました。（2025年2～3月）
また、工事費や初期運営費などのために挑戦したクラウドファンディング（2024年9～10月実施）では、たくさんの方に応援していただき、目標金額100万円を達成することができました。

【交流拠点の運営開始】

2025年4月、交流拠点「BAKKE」がOPENしました。
地域の交流拠点としていろんな方にご利用いただいている他、私の活動拠点としての側面もあることで、空き家に関する相談や、お試し移住で一関市に滞在してる方が相談できる場所としても気軽に利用いただけるようになりました。
また、交流拠点としてだけではなく、都内の学生が一関へフィールドワークに来た際の会場としてや、事業者さんたちの会議スペースとしても利用いただくなど、お店ではない分、使いたい人によっていかようにも形を変えられる場所として親しんでいただいています。



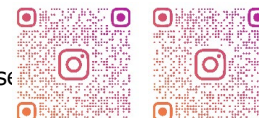
連絡先

【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス（市専用）：misakima@city.ichonoseki.iwate.jp
メールアドレス（個人）：misaki.ichiworks1127@gmail.com
電話番号：0191-21-8194

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

Instagram（個人）：https://www.instagram.com/m.misaki_ichinos
Instagram（BAKKE）：https://www.instagram.com/bakke_1.ru/



基本情報



【年 齢】
32歳
【出身地】
埼玉県所沢市
【転出元】
埼玉県所沢市
【前 職】
・狭山市役所
・パラレルワーカー
(配送業・イラスト)
【活動時期】
R5.4～

協力隊に応募したきっかけ

ライフステージの変化の中で、ゆくゆくは自然に溢れたまちで、子どもたちを伸び伸びと育てたいという中で、彼女の実家の近くの東北地方の仕事を探していました。その上で、行政職員をしていた経験から、地域に根付いた仕事、かつ今やっているイラストをまちづくりに活かした働き方をしたいと仕事を探していたところ、洋野町の地域おこし協力隊の存在を知ります。夏と冬の2回訪問し、地域の人の繋がりや食事、ゆったりとした空気感に惹かれ、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

空き家の改修を行い、町の内外の人の交流拠点を作り、そこをハブとして、広く洋野町に関わってくれる人を増やすことが目標です。

また、洋野町で新たに空き家などの資源を用いて、挑戦してみたい人のサポートなどをイラストを通じて行いたいと考えています。町で自己実現を果たしたい人の支援を人を繋ぐという面と、イラストで形にするという両面から支援できる人として、事業に繋がりたいと考えています。

活動内容

●空き家改修のお手伝いで関係人口創出

空き家となっている民家を改修しつつ、人手がいる作業は「おてつたび」というマッチングプラットフォームで、町外の人たちにDIYを手伝ってもらいつつ、洋野町の観光を体験してもらっています。改修後は交流拠点として、広く利用できる施設にする予定です。



●クラウドファンディングを通じて洋野町をPR

空き家改修に必要な資金調達と洋野町のPRとして、クラウドファンディングを行いました。リターンとしても、洋野町の宿泊割引券や名産品など、洋野町に関するものを設定。8月15日から9月30日までで114名の方にご支援いただき、1,174,500円の調達に成功しました。



●洋野町を知ってもらイベントの実施

地元である埼玉県の繋がりから、2023年度に狭山市にて洋野町の商品を一定期間置いてもらう「洋野町フェア」を実施しました。埼玉県の事業者と洋野町の事業者を繋ぐ役割を果たしつつ、POPイラストも担当しました。商品は人気につき、予定より大幅に売れ、追加発注も行いました。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス(個人or職場)) ytom.base@gmail.com

(電話番号(個人or職場)) TEL:090-8007-1848

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

(Instagram) https://www.instagram.com/thomp_hirono/

(CAMPFIRE) <https://camp-fire.jp/projects/view/691649>



基本情報



【年 齢】
38歳
【出身地】
宮城県仙台市
【転出元】
宮城県仙台市
【前 職】
大学事務職
【活動時期】
R5.6～R8.5

協力隊に応募したきっかけ

地元仙台市が好きで、ずっと外にでることを考えていませんでしたが、退職を機に、そして40代になる前の新たなチャレンジとして協力隊になることを選択しました！
那須町には協力隊の応募を見る前に旅行で訪れていて、豊かな自然がありながら、観光地としての賑わいもある部分にとっても魅力を感じていました。
自然の中で生活したいという憧れと空き家の活用に興味があったことから、那須町の協力隊がピッタリとはまり、迷うことなく応募をしました。

今後の抱負・任期後の目標

今後は退任後に向けて、活動をさらに広げていきつつ、地域の声にもっと寄り添っていきたいです。
現在、改修中の空き家をコミュニティスペースにし、電車待ちの高校生が勉強や活動の場として使用したり、地域の方のチャレンジの場にしたり、地域内外の人々の繋がるの場所になっていくことを目指しています。
退任後は、このコミュニティスペースを拠点に、人と人をつなげていく活動をしながら、地域の情報発信などを継続していきたいと考えています。

活動内容

●黒田原駅前空き家活用プロジェクト

令和6年1月から黒田原駅前にあった空き家兼空き店舗を、地域の方々が集えるコミュニティスペースにしたいと考え、「黒田原駅前空き家活用プロジェクト」を企画しました。

改修作業は県内の大学生、地元の高校生・中学生に声をかけ、空き家にあった残置物の片付けから壁のペンキ塗り、椅子作りなど、作り上げる段階から関わってもらいました。駅前の比較的人通りも多い場所で行っているだけあって、若者が何かをしていると地域の方も気になって覗きにきてくれたり、声をかけてくれるので、その度に宣伝をしています。
完成後は学生や子供たちの居場所・活動の場、地域の方のチャレンジの場、人と人の繋がり場にしていきたいと考えています！



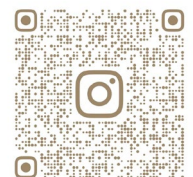
●「黒田原だっばラジオ」で地域の情報発信

地域おこし協力隊OBが立ち上げたローカルインターネットラジオ「黒田原だっばラジオ」にて隔週金曜日にパーソナリティとして活動しています。
担当日以外にも地域のイベントや地元学校の活動などを取り上げた情報発信を積極的に行っています！



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) kana.ito.1217@gmail.com
(電話番号) 0287-72-6955 (ふるさと定住課)
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(黒田原駅前空き家活用プロジェクト)
https://www.instagram.com/akiya_kurodahara/



@AKIYA_KURODAHARA

基本情報



【年 齢】
29歳
【出身地】
群馬県渋川市
【転出元】
東京都杉並区
【前 職】
会社員
【活動時期】
R3.12～R6.12

協力隊に応募したきっかけ

出身小学校が閉校したことを機に何か活用できないかと考え、市役所窓口で相談したところ貸し出しはハードルが高く、空き家活用でスモールスタートすることを提案されたのがきっかけです。空き家活用を考えていたところ空き家活用部門での協力隊募集を見つけ即応募。

今後の抱負・任期後の目標

任期後も空き家問題に取り組みながら創業希望者が挑戦しやすい町だと思えるような空き店舗等の発掘を行い、事業者、移住者の増加の一端を担えるような存在になりたい。

活動内容

●空き家利活用に関するSNSでの情報発信

市の空き家利活用推進活動に関するInstagramのアカウントを作成し、空き家利活用推進及び自身の地域おこし活動に係る情報を発信。市内空き家利活用の機運醸成を図った。また自身のfacebookアカウントにおいても同様の情報発信を併せて実施している。



●古民家リノベーション作業

築85年の古民家を購入。市内外の一般の方や地元高校生とコラボを実施しリノベーション作業や各部屋のコンセプトを決めるための意見出し等を実施。リノベーションを身近なものとして認識してもらい、それが空き家活用に興味を持ってもらうことを狙いとしている。



●地域活性化イベントの開催

令和4年度に渋川市赤城町のJR敷島駅周辺での創業希望者向けに「シキシマクラフトマーケット」また、令和5年度市内に創業開業を目指している事業者向けに市内公共空間を活用した実証実験の主催者としてマルシェを2回開催した。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(個人)) hoshino62@outlook.jp
(電話番号(個人)) 090-8301-7875

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(instagram)
<https://www.instagram.com/hayato.shibukawa/?hl=ja>



基本情報



【年 齢】
32歳
【出身地】
東京都東久留米市
【転出元】
兵庫県宝塚市
【前 職】
建築設計業
【活動時期】
R6.5～
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

茅野市出身の父を持ち、諏訪地域に訪れる機会が多くあり、諏訪地域の美しい風景やまち並みに幼少の頃から関心を持っていました。中でも諏訪市には諏訪大社本宮や片倉館などをはじめとした建築的魅力にもあふれるまちであると感じています。

「空き家の掘り起こしと利活用」というミッションではこれまで培った建築の専門的な能力が十分に活かせる点や、地域おこし協力隊として諏訪に住む方々に積極的に関わる機会を得られる点にメリットを感じ、応募に至りました。

今後の抱負・任期後の目標

○今後の抱負

諏訪地域には細い小路が入り組む独特のまちの風景や、風土に育まれた建てるみなどの独自の建築様式が今も残されています。

空き家の利活用を通して、まちの魅力を引き継いだエリアリノベーションが広がっていく機運をつくっていったらと考えています。

○任期後の目標

建築の歴史意匠、そして諏訪地域のアニミズム的な側面に深い関心があります。任期後には諏訪地域に根ざした設計事務所を開業することが目標です。

活動内容

●空き家の掘り起こし ーみなに伝える方法

諏訪市は約5軒に1軒が空き家であり、さらに年間30戸ずつ空き家が増加している傾向にあります。中でも特に空き家が密集する上諏訪駅周辺エリア(約700件)をメインターゲットとして掘り起こしを行います。

空き家オーナーと利活用希望者をつなげる「空き家マッチングサービス」などの制度や「空き家バンク」によって、空き家を利活用につなげる活動を行っています。



●空き家見学会・ワークショップ ーみなで考える方法

空き家見学会・まちあるき、空き家の利活用を考えるワークショップを定期的に開催し、空き家への関わりやマッチングのきっかけをつくります。

空き家見学会・まちあるきは月1回程度で不定期開催、ワークショップは中高生や市民を対象に空き家利活用についての意見を吸い上げ、実際の空き家に反映していくことで、まちの変化を自分事に感じてもらう取り組みを行います。



●空き家の利活用 ーみなでつくる方法

R7～R8年度にかけて、掘り起こした物件を対象に空き家のDIYイベントを開催します。地域おこし協力隊が常駐しながら参加者を募り、少しずつ改修していくことにより、地域に開けた空き家改修を行う計画です。

また、改修時～改修後にかけてチャレンジショップや、市や民間のイベントスペースとしても活用していくことで、市内の利活用希望者も併せて募っていくことを想定しています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス) tokei@city.suwa.lg.jp (代表)

kei-fujimori@city.suwa.lg.jp (個人)

(電話番号) 0266-52-4141 (内線267)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

Facebook : <https://www.facebook.com/suwachiikiokoshi/>

Instagram : <https://www.instagram.com/suwachiikiokoshi/>



Facebook



Instagram

基本情報



【年 齢】
30歳
【出身地】
奈良県生駒市
【転出元】
奈良県生駒市
【前 職】
住宅の設計施工会社
【活動時期】
R2.5～（5年目）

協力隊に応募したきっかけ

- ・増えていく空き家の活用に興味があった
- ・ソーシャルキャピタルに興味があった
- ・自分自身の暮らしも上記2つを实践できる、かつ仕事にできる地域に移住をする予定で調べていた
- ・塩尻市は新しいことに挑戦する30代前後が多いと知った
- ・赴任予定地が重要伝統建築物群保存区域内にあった

今後の抱負・任期後の目標

「暮らしの選択肢を広げる」を活動軸に20～50代を対象に主に住宅を中心とした遊休不動産・移住・ソーシャルキャピタル・DXを絡めた、暮らし方や暮らし場所の選択肢の広さや自由さを提案していきたい。
再生した古民家の運用、新たな物件の発掘、移住者の相談、移住後のフォロー、街の活性化を中心に仕事をつくり、任期終了後もこの場所で活動を継続する目処が立っている。

活動内容

●多機能型 短期滞在施設の創出（空き家再生）令和3年～

伝統産業(漆器)が根付く人口約1000人の地区で来訪者の受け皿になり地域と交わるための場所づくり。
運営方法：一棟貸し宿／喫茶室の営業
年間宿泊者数 363人（令和6年度）
イベント来訪者数 年間約300人～500人（R3～R6）



●中長期向け滞在施設を2棟創出（空き家再生）

令和5年に空き家を2棟購入し、2週間以上の滞在者が金銭的負担なく滞在体験ができるように整備。
a棟：8-10月 主に桧川小中学校への山村留学希望者滞在
R6年度も多く予約・利用があった。
b棟：複数名との滞在契約あり。



●観光、移住促進、空き家改修プロジェクトサポート

- ・空き家バンク／移住相談窓口との連携、移住相談対応
- ・移住相談窓口のPR、活動方針アドバイザー業務
- ・中心市街地空き家再生事業（合同会社en.to）
建物の工事におけるプロジェクトマネジメント
- ・観光協会との協働（観光商品創出、地域ガイドなど）

塩尻
耕人伝統と現代のあわせを見つめ、木曾漆！
うもし工房石本五平 漆器家 石本賢子さんの暮らし方 2023.08.28

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）saki.kondo9301@gmail.com （電話番号）080-1431-5941
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
IG：https://www.instagram.com/hibi_besso/?hl=ja
note：https://note.com/sakikondo

基本情報



【年 齢】
40歳
【出身地】
岐阜県中津川市
【転出元】
岐阜県中津川市
【前 職】
宿泊業・不動産業
【活動時期】
R.4.4～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

岐阜県で空き家の再生や古民家ゲストハウスをしていましたが、COVID-19により劇的に社会が変化中、違う地へ移住しようかなーと考えていました。長野県や滋賀県・沖縄県などの移住候補地の中で家族が一番安心して暮らすことができることを優先し、長野県みのわ町を選びました。タイミングよく地域おこし協力隊を募集していたので応募し、これまでの知識と経験を活かして町の空き家500軒の流通サポートをすることになりました。

今後の抱負・任期後の目標

・長野県と岐阜県に加えて、沖縄県も加えた複数拠点での活動を考えています。
まちの共有地Cafe Camonに加えて各地の空き家や地域を再生することを生業にしながら、引き続き地域が必要とすることを提供し続けられるように勉学に励み、健康に気を遣いながら楽しく生きていきます。

活動内容

●空き家の流通サポート

空き家バンクと連携して空き家のオーナーからの相談を受けて物件の流通サポートをしたり、移住希望者から空き家購入やリフォームについての相談に対応しています。また、箕輪町空き家対策本部チラシを作成して町内店舗や集会所に張り出して空き家の掘り起こしを行なっています。



●まちの共有地Cafe Camon【カフェカモン】の開店と運営

地域内外の方が気軽に立ち寄れる場所作りを箕輪町三日町地区に作っています。カモンの中には町民の方に自由に使ってもらえる場所「共有地」を数ヶ所用意し、店舗利用だけでなく公民館のような機能を持たせようと考えています。



●出会いと発見の場作り・古民家改修ワークショップの開催

カモンの工事にはたくさんの方々に参加してくれています。これまで5回のワークショップを開催し、地域の中学生や高校生をはじめ、都会の家族や移住者さん、日本を旅している外国人など約120名が参加しました。建物の土台作りからカフェメニュー作りまで色んなWSを行い、様々な方からアイデアをいただいています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(個人)) akiyaboronco@gmail.com
(電話番号(個人)) 090-4403-0309

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
Facebook/Instagram: 空き家再生隊ボロンコピリー



基本情報



【年 齢】
26歳
【出身地】
大阪府高槻市
【転出元】
和歌山県湯浅町
【前 職】
大工
【活動時期】
R6.10～R9.9

協力隊に応募したきっかけ

自身のストレスから不眠となり前職を退職後個人で活動。次のステップに進みたいと建築関係の働き口を探していたところ空き家部門での地域おこし協力隊の募集をしていることを知り応募した。

大学で建築学を専攻しており空き家活用やリノベーションに関する研究も行っていた。自身が経験してきたことを活かすことができ、地域創生への興味関心もあったため最適であると判断した。

今後の抱負・任期後の目標

「挑戦できるまち湯浅」を目指して活動する。まだ使える空き家の情報を整理し、空き家の活用希望者と大家さんをマッチングすることで町内に「おもしろい場所」を増やしていく。まち全体として魅力を向上させこの地で挑戦してみようと思ってもらえるようなまちにしていきたい。

湯浅町は商業の町として栄え昔は映画館があったりボーリング場があったりと人々が集まる町だった。しかし、衰退の経過を見ているからか町民はどこか諦めムードだ。まだまだこの地域もできると地域住民に思ってもらいたい。

活動内容

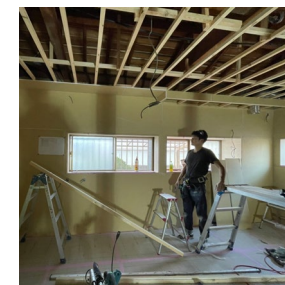
●空き家相談窓口地業務

空き家の大家さんと空き家の活用希望者さんをマッチングする。定期的にイベントを開催し空き家に関する情報を集め整理する。実測調査、家財整理、補助金の案内などもおこない使える空き家を増やしていくことも目的としている。



●空き家再生

空き家を再生し地域に「おもしろい場所」を増やす。リノベーションは参加型で行い、地域住民や外部の方々につくる過程で参加してもらいながらその場所を発展させていく。ワークショップも定期的に行いながら空き家を再生する。



●地域活動の可視化

地域の魅力を外に発信しなければ移住希望者の増加は見込めない。湯浅の「人」のおもしろさを伝えられるようなメディアを制作する。動画制作、ホームページ運営、ラジオなどまだ方法は模索中だが様々な方法で魅力を発信する。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(個人)) fussan.12.01@gmail.com
(電話番号(個人)) 080-5704-9712

【活動の様子を発信しているSNS】
<https://www.instagram.com/fussanosakana63/>

基本情報



【年 齢】
31歳
【出身地】
兵庫県明石市
【転出元】
兵庫県明石市
【前 職】
団体職員
【活動時期】
R5. 4～現在

協力隊に応募したきっかけ

大山町には以前より頻繁に訪れており、暮らしを手作りし、自ら楽しみを生み出す地域の人々の姿勢に憧れていたため「大山で暮らしたい!」という想いが強かったです。また、ただ単に住まいが町内というだけではなく、出来る限り地域に根付きたいと考えていました。そこで、自ら地域課題をさがして仕事を作ること、自ら持つ能力を以て地域に貢献することでのきる、地域おこし協力隊の制度を活用させていただきました。

今後の抱負・任期後の目標

空き家を利活用して、次のような機能をもつ活動拠点づくりを目指します。

- ・リサイクルショップ：レスキューしたものを手入れし、ストックし、販売する
- ・シェアキッチン：にぎわいを創出する／チャレンジの場をつくり、将来的に空き家を活用する可能性のあるプレイヤーを見つける
- ・不動産会社：地域の不動産の見守りと流通を担う

活動内容

●空き家からの古道具のレスキューと資源循環

空き家のその後の利活用へのハードルの一つである残地物の片付けを部分的に伴走しながら、当時の大山での暮らしをあらわすような古道具をレスキュー（引き揚げ）しています。このレスキューしたものは県内外のイベントへの出展を通して次世代に繋げ、資源循環にも取り組んでいます。



●空き家等を活用したイベントの実施

地域の若者世代とともに、大山町内の空き家や遊休スペースを活用した蚤の市を実施しています。楽しみながら古道具や空き家に触れてもらい、自分ごととして家の将来について考えてもらうきっかけの創出を試みています。



●森の空き家活用の達人“ヤマネ”を用いた教育普及

森林で他者の古巣を活用して暮らす野生動物である「ヤマネ」の研究者・学芸員の経験を活かし、将来深刻化するであろう空き家問題を若い世代にもわかりやすい形で伝えるためのツールである広報誌や絵本作りを行っています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) yamanenonegura.daisen@gmail.com
(電話番号) 0859-54-5202 (大山町役場まちづくり課)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(Instagram) @yamanenonegura



@YAMANENONEGURA

基本情報



【年 齢】
42歳
【出身地】
香川県坂出市
【転出元】
島根県松江市
【前 職】
事務・販売
【活動時期】
R6.6～

協力隊に応募したきっかけ

結婚をきっかけに松江で暮らしていましたが、松江で子供を育て続けるイメージができませんでした。雲南市への移住を考えて空き家を探していたところ、地域おこし協力隊の募集があると教えてもらいました。募集内容が空き家の流通・活用を図るお仕事だったので、空き家探しの経験も活かせるし、協力隊として活動することによって自分の子供の故郷になるであろう雲南市が、ずっと住み続けたい魅力的な街であり続けるための一助になればいいなと思い応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

放置される空き家を減らし、空き家バンクへの登録を促進するため、各自主組織ごとに、地域の方が気軽に空き家のことを相談できる窓口が作れるといいなと思っています。地域ごとに状況は違うので、各地域に寄り添いながら、活動を進めたいです。任期中に宅地建物取引士を取得予定です。その資格を活かし、雲南市で空き家に関わる活動をするのが目標です。

活動内容

●地域と連携した空き家活用に向けた活動

雲南市内にある30の地域自主組織をまわり、意見交換を行う。

自主組織と連携、地域の方へ空き家等に関する知識の普及や意識啓発を行い、ひとりひとりが自分にも関係があるという意識を持てるように、地域全体の空き家に対する機運の醸成をする。



各地域自主組織にも空き家バンクのポスターや空き家に関する補助制度等をまとめたファイルを配布。空き家バンク制度の周知活動を行い、放置されてしまう空き家が増えないように、自主組織からも空き家バンクの登録に繋がってもらえるように体制を整えていっている。

●空き家バンクの運営

空き家所有者からの相談対応。

不動産協会の連携して現地調査・登録を行う。新規登録物件のSNSでの紹介等も行っている。

あまり活用が進んでいない空き家マッチング制度の登録物件に関して、情報の収集・整理を行い、バンク登録を促す。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス(職場)) unnangurashi@city.unnan.shimane.jp
(電話番号(職場)) 0854-40-1014

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

(雲南市定住サイト「ほっこり雲南」空き家バンク)
<https://www.hokkori-unnan.jp/akiyabank/>

基本情報



【年 齢】
50歳
【出身地】
兵庫県西脇市
【転出元】
神奈川県藤沢市
【前 職】
Webマーケティング
【活動時期】
R5.2～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

コロナ禍を経て、インバウンドも増え観光業に活況が戻る中、観光を通じて地方創生に関わりたいと考えました。また年齢を経て、地方に移動したいという思いもあり、瀬戸内海に惹かれて香川を選びました。

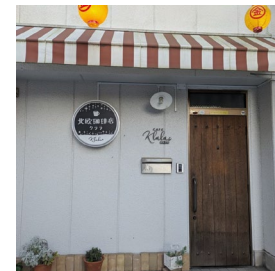
今後の抱負・任期後の目標

都市圏から瀬戸内に人を呼んで、企業研修などを行いたいと考えています。

活動内容

●空き店舗を活用したカフェ

商店街にあるまだきれいなカフェが閉店し、借り手を探すオーナーからの依頼で、期間限定のカフェをすることに。町内の雑貨屋さんと一緒に年末年始に出店する予定です。
チャレンジショップとして、琴平で商売をしてみたい人へのトライアルの場所になることも目指します。



●町内の事業者のインタビューや情報発信

FM香川の番組の取材先を選定したり、インタビュー記事をブログに書いたり、冊子を制作するなどして、町内の事業者の動向を町内外にお伝えしています。
琴平町の行事やイベントに関わる発信も、SNSを通じて行っています。



●空き店舗および空き家の情報集め

不動産会社が把握している空き物件が少なく、町民の方に紹介いただく情報を中心に集めています。町内の子どもに関わるイベントや、町の行事にのお手伝いをして、町民の信頼を得ながら少しずつ進めているところです。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス)) retreat@chokatsu-recipe.com

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

<https://www.instagram.com/tokuyo.m/>

基本情報



【年 齢】
36歳
【出身地】
埼玉県草加市
【転出元】
埼玉県越谷市
【前 職】
デザイン事務所(継続)
まちづくり会社(継続)
【活動時期】
R4.4～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

埼玉県でデザイン事務所を営みながら商店街活動の企画運営サポートや、ワークショップイベントの主催のほか、官民連携のまちづくりに携わり仲間と会社を作り空き家の活用をしていました。
廃校や銭湯、ビル一棟、倉庫など大型物件のリノベーションに興味があり移住を検討。8年間活動した自身の事務所があった商店街一帯が再開発で取り壊しになったことと、結婚をきっかけに移住を決断しました。

今後の抱負・任期後の目標

現在商店街の物件をお借りして自分たちでリノベーションし、任期中にシェアキッチンを含む複合施設を開業予定です。だれもがチャレンジ・活躍できる場を地域の方々と一緒につくっていきたいと思います。
任期後は①リノベーションした施設の運営、②家守会社(まちづくり会社)の設立運営、③自治体向けまちづくりコンサルタント業務、④デザイン事務所の運営を行っていく予定です。

活動内容

●プレイヤー×職員×地域のトークイベントを毎月開催

“地域の人と人がゆるやかにつながる場”と“職員と市民が自然にミックスする場”を作ることを目的に、3名の方にご登壇いただき10分程度の短い時間で自身の取組や事業について話すトークイベント「まちと暮らしのいまはる会議」を月1回開催しております。
現在までに17回開催し、登壇者は62名にのぼります。



●中心市街地にある商店街の空き物件を活用

商店街の空き店舗物件を借り、交流や創業支援の場となる複合施設「くろごま団地」の整備を進めています。地域の方や協力隊の仲間の力も借りながらセルフリノベーションを行っています。
シェアキッチンを核コンテンツとし、一冊書店や刺繍店、デザイン事務所などが順次開業予定です。



●遊休公共施設の活用

中心市街地にある廃校を使用して音楽フェスを開催しました。
また同場所にて廃校利用の実験・実践として職員と共にデイキャンプを行いました。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(職場)) i22768@imabari-city.jp
(電話番号(職場)) 0898-36-1508

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
instagram: [iju_rikken](https://www.instagram.com/iju_rikken)



@IJU_RIKKEN

基本情報



【年 齢】
41歳
【出身地】
神奈川県平塚市
【転出元】
神奈川県横浜市
【前 職】
市役所職員
【活動時期】
R4.8～R7.1

協力隊に応募したきっかけ

妻の実家が西都市にあり、かねてより移住を希望していました。役所関係の仕事を探中で、協力隊の求人を発見しました。当初は別の協力隊業務に応募したのですが、先輩隊員とのオンライン移住相談を受けたところ、現職のほうが自分の職歴（市役所職員として、滞納処分としての不動産公売等を担当）・学歴（法科大学院において、民法や借地借家法等の不動産関係法務を履修）・今後希望する生活ともマッチする（司法書士事務所の開業後の人脈形成等）と感じ、応募に至りました。

今後の抱負・任期後の目標

任期中の目標としていた司法書士試験にこのたび合格できましたので、任期終了後は県内の司法書士法人等に就職し実務経験を積みつつ、開業の準備を整えていきたいと考えています。また、移住定住支援や空き家利活用事業には任期後も何らかの形で関わっていきたいと思っています（小規模な大家業との兼業等）。他にも自給農や農家民泊など、埋もれた地元の財産を発見し、発信し続けることで、人と資金を地元呼び込む活動を続けていきたいです。

活動内容

●空き家等情報バンク

市内に点在する空き家をめぐり、状態や立地条件を調査しています。
また、空き家所有者向けに、市内5地域で「空き家解消説明会」を開催し、市役所職員と共に空き家の利活用方法について、過去の成功事例の紹介を交えて説明し、利活用を促進しています。



●司法書士試験合格

住民に最も身近な法律家である司法書士事務所の開業を通して、空き家等の取引を促進し、地域活性化を達成したいと考えています。
着任以来、司法書士試験合格のための学習を続けてきた成果として、今年度の試験に合格できました。今後は、県内の司法書士法人に司法書士として勤務する傍らで、西都市内での開業を見据え、人脈構築を進めていきます。



●地元高校生の学習支援

地元唯一の高校における、総合的な探究の時間「妻みらい塾」に、メンター（伴走者）として参加しました。所属するまちづくり会社（地域再生推進法人）とも連携・協力し、地元を盛り上げるための音楽イベント等の開催をサポート。担当班は後日、県大会で優秀賞を受賞。地元の若い人材の育成に寄与しました。



連絡先

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
X（移住はにわ@西の都）

